

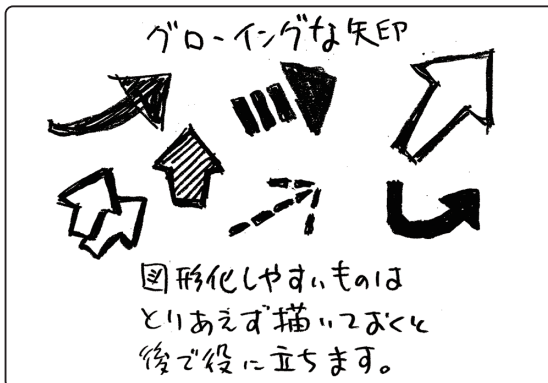
Part 1 文字をスケッチする

ロゴを作る際、念頭に置かなくてはならないのは、何といてもその作品のイメージです。まずはタイトルに使われている言葉がどういう意味を持っているのか、その文字列からどういうモチーフが引き出されるのか、どういったイメージが想起されるのかをざっと書き出します。そして、そのイメージからスケッチを組み立てていきます。ここでは『はるかぜグローイング』という架空のタイトルロゴ制作から、その流れを見ていきましょう。

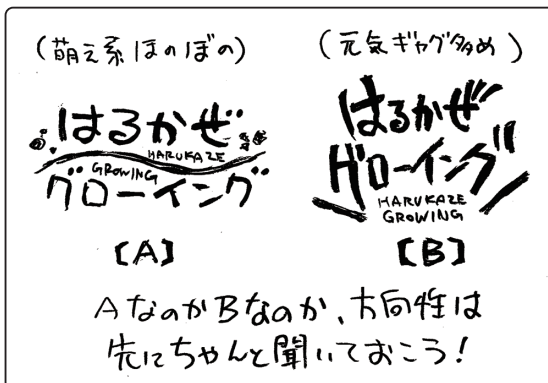
● 1-1 とりあえずたくさん書きましよう



● 1-2 こういうのは別のロゴのネタにも使えます



● 1-3 自信作が『全然違います』の悲劇を避けよう

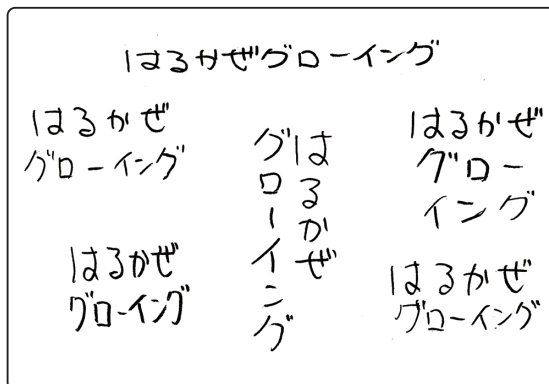


このタイトルは大きく「はる」「かぜ」「グローイング」に分解することができます。ここではそれらの言葉から連想できるイメージを書き出してみましょう。「はる」からは桜、青葉、若葉。「かぜ」からは、流線型のモチーフなどでしょうか。こうした抽象的なモチーフでも、絵的なものでもOK。難しく考えずに、何でもかんでも書いてみましょう。ここでは「桜の花びら」「葉っぱ」「若葉」「やさしさ」「やわらかさ」「かわいらしさ」「さわやかな風」といったモチーフを挙げています。

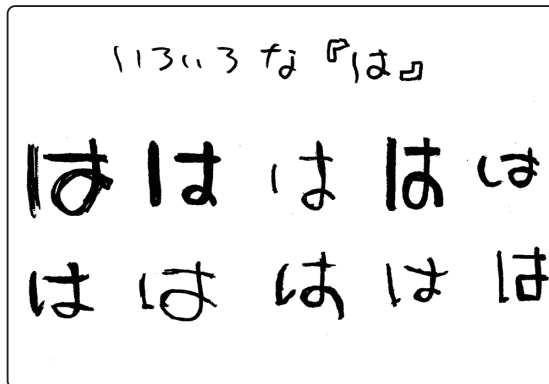
「はるかぜ」の後に続く「グローイング (growing)」は本来成長を意味する英語です。抽象的な言葉なので、そのイメージが視聴者に伝わるように図形化していきます。「右肩がりの矢印」などを用いると、成長という意味合いが伝わりやすいかもしれません。「成長」からさらに広げて、二次的に連想できる別の言葉でもOKです。たとえば、「希望」「夢」「未来」といった言葉でしょうか。

とにかくたくさん連想イメージを文字として書いていきます。なお、ロゴを作る際に、作品コンセプトや内容の詳細が十分に知らされていないこともあります。その場合でも、タイトルにはその作品の持つイメージがこめられているはずであり、作品の象徴であるはずなので、タイトルに用いられている「言葉」をよく吟味して、そこから想像を広げていくことが重要です。もちろん、まずは作品制作者への内容確認を忘れずに。(ここで齟齬があるとかけ離れた方向に努力することになってしまい、後で大変なことになりますよ!)

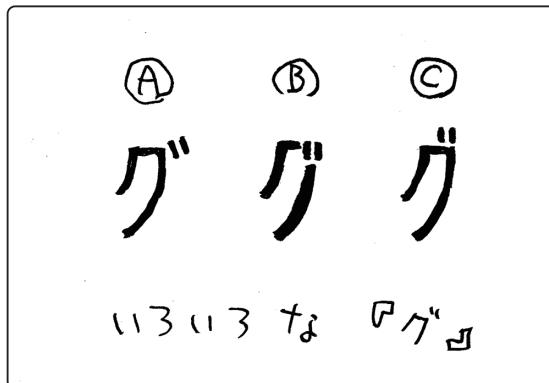
● 1-4 ここは頭をからっぽにしてひたすら書きます



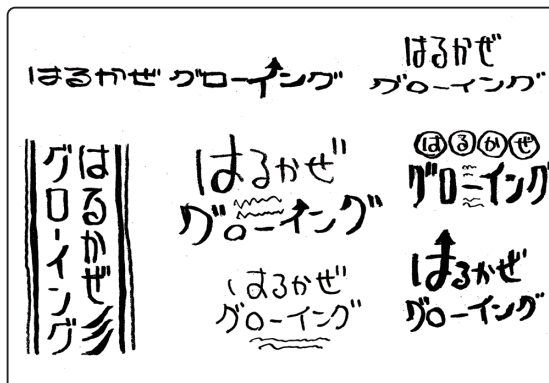
● 1-5 なんかちょっと爛れてるみたい



● 1-6 グたくさん、って本文につい書きそうになった



● 1-7 この工程が楽しくなってくるとしめたものです



ロゴタイプのイメージがかたまったら、次に「はるかぜグローイング」という文字をいろいろな配置パターンで書き出します。例えば1行で書いたり、2行で書いたり。あるいは縦で書いたり、横で書いたり。後のラフの基礎となるため、いろいろな配置パターンを試してみましょう。「はるかぜグローイング」の場合は、無難なところで2行横置きパターンが考えられます。

言葉のイメージもそうでしたが、配置パターンもとにかくたくさん書いていきます。これは文字が持っている図形としての情報を把握するための練習にもなります。例えば「はるかぜ」の「は」は、右下側(3画目)のクルッと丸まったところが特徴的で、ここが小さいとかわいいかもしれません。あるいは、大きいほうがかわいいかもしれない。こうした特徴の把握は、実際に書いてみればわかることがたくさんあります。なので、とにかくいっぱい書いてみましょう。

たくさん書くといっても、同じ書き(描き)方を続けていても意味がありません。常に違うパターンで書くことを意識しましょう。例えば「グ」という文字を普通に書いたら、Aのようになります。しかし、この「グ」も書き(描き)方によってはさまざまな姿を見せます。字の濁音のところをちょっとめり込ませるように書くとBのようになり、濁音を上に置くように書けばCのようになります。このスケッチの段階では、とにかくいろいろ試してみて、イメージを広げておくことが重要です。

こういったことを頭に入れつつ、さまざまなアイデアでどんどん書いていきましょう。ラフの前段階なので、自分の頭の中だけで行うブレインストーミングだと思って取り組むと良いかもしれません。